

平成 30 年 2 月 12 日

出場校 顧問・監督 様

全国高体連空手道専門部審判委員会

この度は、全国高等学校空手道選抜大会出場おめでとうございます。平素は、斯道発展になにかとご理解ご協力を頂き感謝申し上げます。

さて、この度の大会出場に関しまして、特に下記の点にご留意頂きますようお願い申し上げます。以前よりお知らせしております点と、新たな変更点なども記してありますので必ずお読みください。

本大会は、公益財団法人全日本空手道連盟競技規定・審判規定、並びに公益財団法人全国高体連空手道専門部申し合わせ事項によっておこなわれます。競技上の事については、最終的には審判団の決めたことに従い、円滑な競技運営にご協力ください。

#### 「計量について」

計量には要項に記載された着衣で臨んでください。定められた時間内に何度でもトライ出来ます。男女ともに計量室に入室できるのは本人のみとします。計量がパス出来なかった場合の最終確認は、選手本人・計量係 2 名・顧問（または監督）の 4 者で行いますので必ず顧問（または監督）の先生は連絡ができるようにしてください。

#### 「安全具」

安全具については、決められた物を正しく装着してください。団体戦は、5 人全員が試合開始時に全ての安全具を装着していなければいけません。（使い回しは出来ません）シンガード、インステップガードは、平成 19 年度選抜大会から義務付けられております。メーカーは「東海堂、守礼堂、ヒロタ、東京堂インターナショナル、ミズノ」の 5 社のみです。

#### **※メンホーは、「メンホーVI、VII」となります。**

#### 「組手競技について」

平成 29 年 4 月に全空連がルールの一部改定をおこないましたので、改定されたルールで実施されます。

##### ＜主な改定点＞

- ・両手で相手を掴む行為は禁止となる。ただし、相手の蹴り足を持ってもう片方の手で相手を掴んで投げる場合は認められる。
- ・片手で相手を掴んでの攻撃、倒した後の攻撃は一瞬であれば認められる。
- ・相手の投げなどによって下になった場合、一瞬片手で相手を掴むことは認められる。

##### ＜その他確認して欲しい点＞

- ・ジュニア・カデットルールとなります。（上段突きは触れたら反則となり、メンホーから 10 センチ以内の突きも決まっていれば得点となります。）

- ・倒した（倒れた）相手への蹴りは認められますが、十分に注意をしてください。
- ・相手の蹴り足を持つての投げは認められます。（ただし、危険な投げは禁止です）
- ・10カウントルールを採用します。
- ・団体戦は、1，2回戦は勝敗がついても全員が試合をおこないますが、3回戦以降は勝敗がついた段階で終了します。
- ・負傷を装った行為（誇張）は、反則注意以上の罰則になります。
- ・帯より下を掴んだ場合はC1の罰則となります。
- ・無防備は当たった時のみ適用され、技の得点や、C1の罰則と同時に使われません。
- ・ペナルティーにより、相手へポイントが入ることはありませんが、「反則」になりますと負け（8-0）になります。
- ・互いに攻防することのない時間が長くなった場合、「不活動」というC2の罰則になります。
- ・C1による反則勝ちを2回した選手（一発反則勝ちまたは積み重ねによる反則勝ち）はそれ以降の組手競技（団体戦、個人戦ともに）には参加出来ません。
- ・終了15秒未満での、場外、逃避行為は、それ以前にC2の罰則が警告以下であれば（罰則がない場合も入れて）反則注意となり、C2の反則注意があれば反則となります。

※団体戦のオーダー記入は、必ず監督がおこない、記入ミスのないようにしてください。

※応援の声が大きくなると、主審の「やめ」の声が選手に聞こえにくい場合があります。技を取ったあと「やめ」が聞こえず当ててしまつて反則ということがおきます。

※個人組手、団体組手の決勝戦には、ビデオビデオレビューをおこないます。

### 「形競技について」

- ・礼法については、個人形、団体形ともに一試合4回の礼になっています。具体的な方法については、後項の「形・組手の礼法について」をご一読ください。

※**個人・団体形ともにTATAMIに入るとき出るときは礼はしないでください。**

**また、形の開始・終了時の2回の礼をしない場合は反則となります。**

- ・不必要な息吹・足音、道着をたたく行為などは大幅な減点となりますので十分に注意してください。
- ・帯にゴムやその他の物を付けることは禁止行為になります。
- ・個人形での形の使用について、十分に注意をしてください。また、団体形については、準決勝戦・決勝戦では形の「分解」があります。後項の「形競技におけるルールについて」をご一読ください。

### 「空手道着について」

- ・上着の袖は最長手首までとし、肘から手首の間の中程より短くてはいけない。また、上着の袖をまくってはいけない。

- ・ズボンの長さは、少なくとも下肢の3分の2を覆う長さとし、踵が隠れてはならない。
  - ・袖の空き部分、ズボンの空き部分に関しては片側に寄せた状態で、余っている部分長さが**8～20cm**でなければならない。
- ※必要と判断したときには、実際に測定し、それで違反と判明した場合は1分間ルールを適用しますので、十分に注意してください。
- ・上着の紐は必ず付いていなければならない、さらに試合中は結んでいなければいけません。また、上着の胸紐は付けてはいけません。

### 「監督」

臨時監督が付ける場合は、自校の試合が並行している場合です。また、監督席に選手を読んで指示することは出来ません。

### 「申し合わせ事項の注意点」

**以下の点について、変更されたことなので、注意してください。**

- ・テーピングの色は、**白色のみ**となります。
- ・サポーターは、**膝以外は白色のみとし、膝の場合は白色に加え黒色も可とする。**

**帯の刺繍について、形の礼法について、団体形の分解について、ビデオレビューについては、別紙に詳しく記載してありますのでご一読してください。**

### 「運営面」

- ・開会式、閉会式は**黒帯**で参加します。
- ・形・組手共に個人戦も団体戦も「**正面に礼、お互いに礼**」が終わったら、**タタミの外側に1回戦の選手（団体）以外は出ます。**

# 空手着に関する規定について

全国高体連空手道専門部

以下のように定める。

1. 道着サイズについて  
上着腕部分、下着足部分の幅は、腕・足から残の部分が、8 ～ 20 cmとする。(高体連申し合わせ事項参照)
2. 袖、上着の長さ、下着の裾の長さはルールブック通りとする。
3. 袖や裾やその他の部分において変形することは禁止とする。
4. 胸紐は付けてはいけない。また上着の紐は付いていなければいけない。
5. 胸の学校名と袖の県名は、刺繍、プリントを問わず色は黒・紺・スクールカラーのどれかとする。(色を合わせて使うことは禁止。) 大きさは5×5 cm～7×7 cmとする。
6. 名前の刺繍は黒とする。(名前はなくてもよい。)
7. 決められた場所(胸の学校名、袖の県名、上着、下着の名前)以外に刺繍等を行うことは禁止とする。

なお、6, 7については平成28年4月1日からの実施とする

名前の刺繍について

- 1, 入れなくても良い
- 2, 入れる場合は黒色とする(白色も禁止)
- 3, 入れる場合は自分の姓(名字)またはフルネームであることが望ましい

## 形・組手の礼法について

形、組手の礼法については以下の事をしっかりと守ってください。

### 1. 組手

従来と変わりません。特に試合が終わって TATAMI を出る際の礼をしつかりとおこなってください。

### 2. 形

**団体・個人形ともに形を始めるときの礼と、終わったときの礼の 2 回をしなかった場合反則負けになりますので注意してください。**

礼の回数は、以下にあります **礼①**、**礼②**、**礼③**、**礼④** の 4 回です。

呼び出し係 「赤 ○○選手」 ……選手「ハイ」  
「青 ○○選手」 ……選手「ハイ」

赤選手、TATAMI 中央に移動して、礼をせず TATAMI 内に入る。

**礼①** をして形を始め、形が終わり**礼②** をする。

赤選手はそのまま礼をせずに TATAMI の外に出る。

赤選手が TATAMI の外に出たら、青選手は、赤選手と同様にコートに入って形をおこない、終了する。**なお、始めに赤青の呼び出しをおこなっていますので、ここで青の呼び出しはいたしません。**

青選手が TATAMI から出たら、従来通り赤・青並んで判定を受け、その後、「互いに**礼③**、正面に**礼④**」をする。

※ TATAMI 外で名前が呼ばれたときに礼をすること、TATAMI の出入りのときに礼をすることは絶対にしないでください。大会が遅延する大きな理由となっています、是非ご協力をお願いします。

平成 30 年 2 月 11 日

## 形競技におけるルールの改定について

(公財) 全国高体連空手道専門部審判委員会

形競技において、以下のようにルールの改定をおこないます。都道府県内の各高等学校

への周知を宜しくお願いいたします。(全国高体連ホームページにも掲載いたします。)

1. 全国選抜大会団体形準決勝、および決勝戦において、「形の分解」を導入する。ただし、選手の安全面を考慮し形の分解では、ルール上の反則行為以外に、以下の行為を禁止事項とする。

#### 禁止事項

- ① 首に蟹挟みをかける行為
- ② 相手を自分の肩より上に持ち上げる行為
- ③ 相手を投げ捨てる行為 (相手を片手で支えること)

#### ルール上の反則行為

- ① 分解中に怪我があった場合は減点となる。ノックダウンした場合は反則となる。
- ② 審判妨害、安全性のために審判が動かざるを得なかった場合、又は接触した場合
- ③ 分解を演武しなかった場合
- ④ 時間をオーバーした場合 (形演武、分解合わせて6分以内と決められている)
- ⑤ 演武中に帯が落ちた場合
- ⑥ あきらかに形が中断、又は停止した場合
- ⑦ 形演武の開始の礼、分解終了後の礼をしなかった場合 (礼は3名全員すること)  
また、チーム全員が主審の方を向いて演武を開始し終了すること
- ⑧ 主審の指示に従わなかった場合、品行が悪かった場合 (失格になる場合もある)
- ⑨ 異なる形を演武した場合、又は異なる形名を告げた場合

#### 減点要素

- ① 演武中に帯が緩んで、尻まで下がった場合
- ② むやみに足をならしたり、胸や腕又は空手着を叩いたり、むやみに息を吐き出すなどの聞こえるような音で合図した場合

2. 個人形において

全国選抜大会では、従来通り1, 2回戦は第1指定形 (繰り返し使用可)、3, 4回戦は第2指定形 (繰り返し使用可) とし、5回戦以降については以下のようにする。

5 回 戦 (準決勝戦) それ以前に使用していない形

6 回 戦 （決 勝 戦） それ以前に使用していない形

インターハイでは、従来通り 1， 2 回戦は第 1 指定形（繰り返し使用可）、 3， 4 回戦は第 2 指定形（繰り返し使用可）とし、 5 回戦以降については以下のようにする。

5 回戦、 6 回戦（準決勝戦） それ以前に使用していない形で繰り返し使用可

7 回 戦 （決 勝 戦） それ以前に使用していない形

3. 上記 1 ならびに 2 について、平成 2 8 年度全国選抜大会（大分大会）より実施する。

### ビデオレビューについて

全国高体連空手道専門部審判部

本大会は、本大会男女個人組手決勝戦、男女団体組手決勝戦において、ビデオレビューを導入します。以下説明をご一読ください。

1. 監督は、自校の選手の出した技について、その技が入っていると思うときにカード（赤・青）をあげることが出来ます。（相手の技については一切何も出来ません）
2. その技が入っていた場合（YES）は、主審は得点をコールし、カードは監督に戻されます。その場合、再びカードを使用することが出来ます。
3. 技が入っていない（NO）と判断された場合は、得点はコールされず、主審は続けて始めます。その際、カードは没収されます。
4. 選手の方から監督にカードを出してほしいという行為、または監督が選手にカードをだすかどうか聞くような行為をした場合は、選手にC2の反則が与えられます。（主審のポーズは、唇に人差し指を立てる）ただし、技の判定はおこなわれます。
5. 監督がカードを1度あげてしまった場合は、判定がおこなわれます。監督が、ガッツポーズをしたときに手にカードを持っていた場合も同様になりますので注意してください。
6. 監督がカードをあげたとき、主審がC1またはC2の再考を促した場合、カードは没収されます。
7. ビデオに問題の技が映っていない場合（判定できない場合）は、カードは没収されます。機材に不備があって判定できないときだけカードは監督に戻されます。

#### 判定員

1. 双方の高校に関係のない、経験豊富な審判員が2人入る。あと、オペレーター1名。これ以外の間人はビデオを見ることが出来ない。
2. カードが上がるとビデオを巻き戻し、普通の早さで問題の技を見る（スローにするのは、技が抜けているかどうかを判定するとき）
3. 判定は、2人の判定員が同時に「YES」の時のみYES、1名でも「NO」の場合はNOになります。

#### 新ルール導入、メンホー並びに赤青帯の使用について

全国高体連空手道専門部 審判部

標記の件につきまして、平成29年2月11日（日）の全国常任委員会で以下のように決まりました。各県大会、地区大会での導入時期、使用開始時期についてはお任せいたしますが、出来るだけ選手にとって不利益にならないように



ご配慮のほどよろしく願いいたします。また不明な点等がありましたなら、審判部委員長・南沢（北海道恵庭南高校090-8709-9099）までご連絡ください。

#### 1. 新ルールの導入時期について

すでに県連盟、地区連盟単位で新ルールの講習会が実施されている模様ですが、全空連が4月に新ルールの導入をした場合、全国高体連も7月のインターハイ（福島大会）から新ルールで実施いたします。なお、新ルールについての質問がある場合、遠慮なく南沢まで連絡してください。

#### 2. 赤青帯の使用について

長らく高体連の全国大会では、赤紐の使用で大会をおこなってきましたが、平成29年度インターハイ（福島大会）より、紐の使用をやめて、「赤青帯」の着用となりました。

帯の色にむらや材質に大きな違いがあってははいけませんので、指定メーカー以外の帯は使用できません。（高体連指定のラベルがなければいけません）

##### ※ 刺繍について

本来のルールでは、刺繍を一切しないこととなっているので、新しい帯を購入する場合は、刺繍を一切しないことが望ましいです。ただし、全空連の大会では認められていることもありますので、入れる場合は以下の通りとします。

所属名は 「〇〇高等学校空手道部」「〇〇高等学校」  
「〇〇県高体連」「全国高等学校体育連盟」  
「全日本空手道連盟」

この類とし、会派流派名や道場名は不可とします。

もう片方は 名前

なお、テーピングテープ等を帯に巻き刺繍を隠す行為は認めません。

※ 刺繍の色については、平成30年度インターハイ（岐阜大会）からは、「金色または銀色」とします。

平成29年3月26日

### 赤・青帯 指定業者について

全国高等学校体育連盟 空手道専門部

赤・青帯の高体連指定業者は、全空連指定業者と同じく以下の4社とする。

東海堂 守礼堂 ヒロタ 尚武

ただし高体連指定のラベルを貼っているものとする。

上記4社の帯で、高体連ラベルのない帯については、ラベルだけの販売をいたします。

指定業者に帯を持って行き（発送し）、ラベルを縫い付けてもらってください。

ただし、ラベルを貼る場所が決まっていますので、ラベルを購入し個人で縫い付けることはしないようにしてください。